

令和6年度こころの健康センター運営協議会 議事概要

開催日時：令和7年3月13日（木）19時30分～20時30分

開催場所：子ども家庭総合センター 4階 多目的室

出席者：丸木努委員、内田直委員、加瀬裕之委員

欠席者：峯真人委員

事務局：久保所長、佐藤所長補佐、三浦医師、星野専門幹、塚田係長、小池係長、戸矢係長、沼澤係長、手塚主任

公開・非公開の別：公開

傍聴人の数：0人

会議資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・さいたま市こころの健康センター運営協議会設置要綱
- ・令和6年度こころの健康センター事業実績報告
- ・令和5年度こころの健康センター所報

1. 開会

2. 挨拶（久保所長）

3. 議事

（1）令和6年度こころの健康センター事業実績報告

事務局より配布資料に沿って説明

（2）今後の運営に関する意見交換

【内田委員】

自殺者数は減っているのか。

【塚田係長】

さいたま市の自殺者数は、暫定値だが令和6年1月から12月にかけて220人。令和5年は203名で増加している状況にある。全国的には自殺者数は減っているが、本市では増えている状況である。

【内田委員】

その理由は分析しているか。

【塚田係長】

詳細な分析はできていない。経済困窮や家族背景の複雑化などの要因が考えられるところではあるが、40代が顕著に増えている。

【内田委員】

同じ仕事をするのであれば成果が出るように修正したほうがいいので、分析が非常に重要になってくるかと思う。

医療機関との連携はケースとして扱うか。

【塚田係長】

相談者の中には通院中の方もいるので、場合によっては医療機関と連携している。

【内田委員】

連携できることを知らずに診察している医療機関も多いと思うので、医師会を通じての広報や取組をしてもいいのかもしれない。

【丸木委員】

自殺者数の統計はどこから数を出しているのか。さいたま市在住の方か。

【塚田係長】

警察庁の統計から取っている。発見地ベースのものである。

【丸木委員】

さいたま市在住の自殺者数が分かりにくいと思うので、統計をいろんな側面から出せるとよい。また、現状、内科や救急と比べると精神科クリニックは受け身で、GPEは今まで一般病院や救急病院の自殺未遂者を対象にしていた部分があると思うが、精神科の医療機関に対しても自殺を防ぐやり方を相談できるよう、今後の活動の幅を広げていただきたい。

区役所派遣というのは、令和3年から6年にかけて減っているが、これは人数が減っているのか、相談が減っているのか。

【戸矢係長】

分析まではできていないが、区役所のケースワーカーが自分たちで対応できるようにするのが大きな目的ではあるので、そうなればいいと思う。

【内田委員】

現在、様々なものが依存症として捉えられているが、さいたま市はどのように対応していくのか。

【塚田係長】

当センターが依存症の相談拠点として位置付けられているので、日々の電話や特定相談という形で相談を受けている。また、アルコールとギャンブルの当事者プログラムを実施しているが、中断が多くはなっている。

【内田委員】

何度もやることが大切だと思う。

ひきこもりは大変だが、事業は効果として出るものなのか。

【塚田係長】

数として成果を出すのは難しい。二、三十代が一番相談の多い年代になるため、まずはご両親の相談から継続して受けている。

【内田委員】

派遣が減っているが、リレートサポーターの大学生が卒業してしまうという状況は、令和3年の時点と同じか。

【塚田係長】

当時の状況は把握していないが、以前と比べ、利用を勧めても「大丈夫です」という方が多く、ご本人が変化しているのかなという印象がある。相談件数や派遣回数が減っているが、ひきこもり者数が減っているわけではないと思う。

【内田委員】

どういふ変化が起きているのか、どういふアプローチに効果があったのかを分析しながら、効果があることを反応を見ながら増やしていくのがいいかと思う。

統合失調症に関しては、一般的な精神医療として主に医療機関で担当しているから、こころの健康センターの事業としてはやることはそれほどないか。

【戸矢係長】

保健所の精神保健課に、急性期とか事例化しているケースは入っているかと思う。当センターはどちらかというとひきこもりや依存症などの対応が多い。

【内田委員】

ここに出ているテーマも、本来的には医療現場で対応する体制があればより好ましい形になる。そうなれば、こころの健康センターは集約機関として、連携先を作ったり教育をしたりするのがいいかなと思う。

【塚田係長】

依存症事業では、医療機関、訪問看護ステーション、行政機関、包括など、みんなで依存症の方を支えていけるよう研修などを実施しているので、そういうところも充実させていけるといいのかなと思う。

【丸木委員】

知的障害の方は、小中学校あたりで不登校になっている方が多い印象で、一桁の足し算引き算、切符の買い方などの基礎的なことを習ってないが故に、就労支援をしても就労できなくなってしまう。親御さんとの関わりが強い人はそういうことがよくできているが、関わりが弱い方子どもさんには、基本的なことを習わせてあげると後々仕事などに役立つと思う。知的障害の方も世の中に多くいるので、フォローもいろいろな資源の中で考えていただけるとよいと思う。

(3) 事務連絡

事務局より本協議会委員改選に伴う手続きについて説明

4. 閉会